

## 生保の医務診査で同行

契約の成立に不安が過ぎる

助手席にドクター(医師)を乗せてお客様の勤務先へと向かいます。何度も足を運び、やつと生保のご提案にOKをいただき、その後の話は十分に理解されておりました。

当然ですが、同行のドクターがどうのと言う訳ではありません。なんとなく、自らの契約の段取りに不安を覚えたに過ぎません。

生保の契約の成立手法(段取り)には選択肢があります。

被保険者の年齢や契約の条件等により、告知扱い契約が可能

せんから、営業としては

診査の結果が出るまでは

判決を持つ被告人のよう

な心境です。

契約の引受け延滞や謝絶

の最悪の診査結果が言い渡されると、今までの苦労が崩れ落ちる音さえ聞こえます。

せんなり、お客様としては

ことも正直な心情でし

ます。

このような心労は、私だけに限らず、保険代理店(特に生保アシスタント)は、幾度と無く経験され

ています。

保険会社から、事故多

いお客様の契約を失う

ことがあります。

損保であっても、同じ

ことは発生します。

保険会社から、事故多

いお客様の契約を失う

ことがあります。

このように、お客様との信頼関係にほころびが

生じそうで、あれこれと

思い悩み、そのフォロー

に要する労力が、契約に

至るまでの時間と心労を

上回ります。

お客様は、契約不成立

の保険会社の理由には理

解してくださるもの、

この保険会社には拒否

されました。そのため、

お伝えすることができる

ことがあります。

しかし、ペットボトル

が処理されておいしい部

分は太平洋の向こ

うに行ってしまい

ました。その後22

年、日本は努力を

重ねて今日、世界

で唯一、紙幣を大

量に増刷すること

が可能な国になりました(経済的に

アメリカ、中国、

欧州はいずれも破

産状態にあります)。

即ち、世界の牽引車になれる

のは日本だけなのです。

アメリカ、中国、

欧州はいずれも破

産状態にあります)。

即ち、世界の牽引車になれる

のは日本だけなのです。

即ち、世界の牽引車になれる